

論点（人口について）

- 現在、我が国では、人口減少、少子高齢化が進行しており、帯広市においても、道内他都市と比較するとその減少幅は小さくなっているが、自然動態は、平成 22 年にマイナスに転じて以降、年々、マイナスが拡大し、社会動態も、平成 22 年以降、改善傾向にあるものの、自然動態のマイナスを解消するまでには至っていない。
- また、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、15～49 歳女性人口の減少などに伴い、年少人口（0～14 歳）が減少するとともに、65 歳以上人口が増加し、少子高齢化が急速に進行する見込みであり、今後、人口減少、少子高齢化は避けられない状況となっている。
- これまでの総合計画では、高度経済成長、右肩上がりの時代を背景として、想定人口がインフラの整備やサービス拡大を考える上での前提となってきたが、本格的な人口減少、少子高齢化時代を迎え、インフラ整備の拡大はもとより、これまでと同様の行政サービスを将来にわたって提供し続けていくことが難しくなることが見込まれる中、総合計画における人口の持つ意味合いが大きく変化してきている。

<論点>

- こうした状況を踏まえ、人口減少、少子高齢化の進行にどう対応していくべきか。